

目の健康講座 2023 in 金沢

YouTube
同時配信



QRコードより
ご覧いただけます

令和5年

10月15日(日)

金沢ニューグランドホテル
4F 金扇の間

参加無料
先着300名

13:00~14:00 眼科無料相談(12:30~13:30 受付時間 定員30名 事前登録先着順)
14:00~16:15 講演会

ご講演

アイバンクと角膜移植
講師 小林 顕 病院臨床准教授(金沢大学)

ご講演

白内障手術で老眼を治す
講師 佐々木 洋 教授(金沢医科大学)

ご講演

緑内障から目の健康を守る —アイフレイルに気を付けよう—
講師 杉山 和久 教授(金沢大学)

参加ご希望の方は、以下のいずれかの方法によりご登録をお願いします。(先着300名)

- ▶ 石川県眼科医会のホームページから登録
右のQRコードを読み取り、参加登録をしてください。



- ▶ FAXから登録

右の欄に必要事項をお書きになり
FAX番号 **076-216-7100** までFAXしてください。

フリガナ	
氏名	
連絡先(電話)	
眼科無料相談を希望する()	年齢
※希望する場合は、○をご記入ください。	
	才

- ▶ 電話から登録

電話番号 **076-216-7000** (株)ネクステージ内「目の健康講座」係まで
お電話にて、氏名、年齢、連絡先、眼科無料相談希望の有無をお伝え下さい。

共催：日本眼科医会、石川県眼科医会、石川県アイバンク

後援：厚生労働省、日本医師会、日本失明予防協会、日本アイバンク協会、石川県医師会、金沢市医師会、北國新聞社、北陸放送

アイバンクと角膜移植



金沢大学眼科
病院臨床准教授
小林 顕

【略歴】

1992年
1992年
1996年
1998年
2010年
2015年

滋賀医科大学 卒業
金沢大学眼科学教室 入局
バスクムバルマー眼研究所 分子遺伝学教室 研究員
金沢大学医学部 助手
金沢大学附属病院眼科 病院臨床准教授（兼任）
金沢大学医学部 講師（兼任）
（石川県アイバンク常務理事、日本アイバンク協会評議員、日本角膜移植学会理事）

角膜は眼の最前面に位置する、厚さ約0.5mmの透明なドーム状の組織であり、良好な視機能のためにとっても重要な役割を担っています。この角膜が、形態の異常（円錐角膜など）や透明性の低下（角膜白斑、水疱性角膜症など）を来すと視力は極度に低下し、視力の回復には角膜移植が必要となってきます。角膜の生物学的な寿命は200年程度あるとされており、一代で終わらせるにはもったいない組織です。この小さく薄い組織を移植する（角膜移植）ことで、移植を受けた患者様の視機能を大きく回復させる可能性があります。そして、角膜移植を受けた患者様やそのご家族の人生を大きく好転させるパワーを秘めています。石川県ではこれまでに多くの患者様が角膜移植で視力を回復してきています。アイバンクは、角膜移植に必要なドナー角膜の斡旋を国から許可されている唯一の団体です。ただし、国内では慢性的な角膜ドナー不足が続いており、県民の皆様のご協力を必要としているのが現状です。本講演では、石川県アイバンクの活動の紹介と、最近の角膜移植についてわかりやすく述べたいと思います。

白内障手術で老眼を治す



金沢医科大学眼科
教授
佐々木 洋

【略歴】

1987年
1987年
1991年
1993年
1996年
2005年
2007年
2009年
2018年
2023年

金沢大学 卒業
自治医科大学眼科学教室 入局
米国オークランド大学眼研究所 研究員
自治医科大学眼科学教室 助手
金沢医科大学眼科学講座 講師
金沢医科大学眼科学講座 教授
中国医科大学 客員教授
東北文化学園大学視覚機能学専攻 客員教授
特定非営利活動法人 紫外線から眼を守る Eyes Arc 理事長 現在に至る
金沢医科大学病院 副院長

白内障手術の進歩は目覚ましく、近視、遠視、乱視は全て治せるようになりました。2019年には保険適用の遠近両用眼内レンズが登場し、白内障手術により老眼も同時に治療できるようになりました。老眼になると近方が見えにくくなるため、読書をしなくなったり、趣味の手芸やパソコンなどの作業もしにくくなるため、生活の質（QOL）は低下します。視力の低下は認知機能の低下にも繋がり、認知症のリスクも高くなることがわかっています。白内障手術により老眼が改善すると QOLの向上に加え、認知症のリスクも低下する可能性がありますそのメリットは極めて大きいと言えます。保険適用の眼内レンズよりさらに近方まで見やすい選定療養適用の遠近両用眼内レンズも次々と上市されており、患者さんの生活スタイルに最適なレンズを選択できるようになりました。講演では白内障手術による老眼治療の最新情報についてわかりやすく解説します。

緑内障から目の健康を守る —アイフレイルに気を付けよう—



金沢大学眼科
教授
杉山 和久

【略歴】

1984年
1990-92年
1996年
2000年
2002年
2020年

金沢大学医学部 卒業
米国オレゴン保健科学大学およびデバース眼研究所 研究員
岐阜大学医学部眼科 講師
岐阜大学医学部眼科 助教授
金沢大学医学系眼科 教授 現在に至る
金沢大学医学系長（医学部長）現在に至る

緑内障は視覚障害の原因の第1位で、40歳以上の20人に1人が罹患する比較的多い病気です。しかし、日本眼科医会の調査によると80%以上の方が緑内障という言葉は知っているものの、緑内障について説明できる人はわずかに25%程度です。日常生活が可能な視機能があつてこそ、楽しい老後が送れ、暮らしも維持でき、介護も最小限、認知症の予防へとつながり、すべてが好転すると思います。緑内障治療の目標は、患者さんが一生涯、日常生活の可能な視機能を保持することです。緑内障による失明を防ぐためには、アイフレイル（加齢に伴って眼が弱っていき、目の機能が低下した状態）の時期に早期発見することが重要です。そのためには、ふと気づいた見にくさや眼の不具合を見逃さず、眼の健康について意識していただきたいです。本日は緑内障から目の健康を守るにはどうすべきかをお話します。